

令和7年12月臨時会会議録

令和7年12月23日 火曜日 午後1時00分開会

内 谷 邦 彦 議 長 梅 津 善 之 副議長

出席議員（14名）

1番	平 井 直 之	議員	2番	鈴 木 英 則	議員
3番	勝 見 英 一 朗	議員	4番	鈴 木 裕	議員
5番	鈴 木 悟 司	議員	6番	鈴 木 一 則	議員
7番	渡 部 正 之	議員	9番	鈴 木 富 美 子	議員
10番	渡 部 秀 樹	議員	11番	浅 野 敏 明	議員
12番	金 子 豊 美	議員	14番	梅 津 善 之	議員
15番	今 泉 春 江	議員	16番	内 谷 邦 彦	議員

欠席議員（2名）

8番	竹 田 陽 一	議員	13番	平 進 介	議員
----	---------	----	-----	-------	----

説明のため出席した者

内 谷 重 治	市 長	齋 藤 環 樹	副 市 長
竹 田 利 弘	戦 略 監	新 野 弘 明	総務参事兼地域づくり推進課長
梅 津 義 徳	厚生参事兼子育て推進課長	佐 藤 久	総務参事兼会計管理者兼財政課長
三 瓶 仁 之	総務参事兼総務課長	吉 川 幸 代	総 合 政 策 課 長
渡 部 和 喜 子	福祉あんしん課 長寿介護・地域包括支援センター担当課長	土 屋 正 人	教 育 長
青 木 邦 博	技 監	赤 間 茂 樹	産 業 参 事
丸 山 邦 昭	産業参事兼商工振興課長	渡 邊 恵 子	建設参事兼上下水道課長
竹 田 洋	教 育 次 長		

事務局職員出席者

鈴木敏久	事務局 長	小林克人	補 佐
小阪桃子	議事調査 主査	安達洋司	技 士

議 事 日 程

令和7年12月23日 火曜日 午後1時00分開会

日程第 1 会議録署名議員の指名

日程第 2 会期の決定

日程第 3 議案第87号 令和7年度長井市一般会計補正予算第9号

(質疑、討論、表決)

本日の会議に付した事件

議事日程と同じ

1番 平井直之議員
以上の3名の方をお願いいたします。

開 会

○内谷邦彦議長 ただいまから令和7年12月長井市臨時議会を開会いたします。

開 議

○内谷邦彦議長 それでは、これから本日の会議を開きます。

本日の会議に欠席の通告議員は、8番、竹田陽一議員、13番、平進介議員の2名であります。

よって、ただいまの出席議員は定足数に達しております。

なお、報道機関からパソコン、カメラ、録音機の使用について複数の申請があり、許可いたしましたので、ご報告いたします。

本日の会議は、配付しております議事日程をもって進めます。

なお、この日程につきましては、さきに開催されました議会運営委員会にお諮りし、内定を見ておりますので、ご了承をお願いいたします。

日程第1 会議録署名議員の指名

○内谷邦彦議長 日程第1、会議録署名議員の指名であります。

会議規則第81条の規定によりご指名いたします。

14番 梅津善之議員

15番 今泉春江議員

日程第2 会期の決定

○内谷邦彦議長 次に、日程第2、会期の決定であります。

お諮りいたします。本臨時会の会期は、本日1日といたしたいと思いますが、これにご異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○内谷邦彦議長 異議なしと認めます。

よって、そのように決定いたしました。

委員会付託の省略について

○内谷邦彦議長 お諮りいたします。

これから上程いたします議案は、委員会付託を省略し、全員でご審議願いたいと思いますが、これにご異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○内谷邦彦議長 異議なしと認めます。

よって、そのように決定いたしました。

日程第3 議案第87号 令和7年度長井市一般会計補正予算第9号

○内谷邦彦議長 それでは、日程第3、議案第87号 令和7年度長井市一般会計補正予算第9号の1件を議題といたします。

提案者の説明を求めます。

内谷重治市長。

(内谷重治市長登壇)

○内谷重治市長 提案説明を申し上げます。

議案第87号 令和7年度長井市一般会計補正予算第9号について、ご説明申し上げます。

第1条の歳入歳出予算の補正につきましては、予算の総額に4億6,294万6,000円を追加し、予算の総額を歳入歳出それぞれ201億9,856万9,000円といたすものでございます。

このたびの補正は、強い経済を実現する総合経済対策に基づき、去る12月16日に成立した国補正予算を活用し、歳出におきましては、デジタル地域通貨ながいコイン事業、おこめ券事業、物価高対応子育て応援手当支給事業のほか、必要な事業費を措置いたすものでございます。

歳入につきましては、歳出の財源として国県支出金を計上し、不足する財源に財政調整基金繰入金を計上いたすものでございます。

また、第2条の繰越明許費の補正につきましては、第2表のとおり追加いたすものでございます。

以上、よろしくご審議賜りますようお願い申し上げます。

○内谷邦彦議長 提案者の説明が終わりました。

これから質疑、討論、採決を行います。

なお、申合せにより、委員会付託を省略して全員による審議の場合、当日提案議案の質疑につきましては、一問一答の方式により行うこととされております。質疑の時間は1人当たり、答弁を含めて60分以内となっておりますので、ご協力をお願いいたします。

それでは、日程第3、議案第87号 令和7年度長井市一般会計補正予算第9号の1件について、質疑を行います。ご質疑ございませんか。

12番、金子豊美議員。

○12番 金子豊美議員 市長にお伺いします。

このたび、おこめ券の配布については、各自治体で対応、それぞれ分かれているわけなんです、長井市としては、その効果、狙い等があっ

てのことだと思います。その取組について、市長の見解をお伺いいたします。

○内谷邦彦議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 金子議員おっしゃるように、これは国のこのたびの物価高騰対策として、食料品の対応の部分の別建てといたしますか、予算もあるということから、私ども長井市としましては、おこめ券については大きく2つほど、ほかの自治体さんとは違うかもしれませんが、大きな理由がございます。

まず、第1には、今日は臨時議会を開いていただいて、できるだけ早急に市民の皆様にごこの物価高騰対策として、国の手当を一日も早くお届けしなくてはいけないということ、あと2点目の、そのおこめ券については、一応、国の配慮で別建てという考えもありますので、私ども長井市では米穀の生産拠点の一つでありますから、そういった意味では確かにおこめ券必要でないかという考えもありますが、私としましては、米の需要対策として、地元の生産者を守る、励ます意味からも、そしてまた、おこめ券については米だけではなく、必要ない方にはそれ以外の食料品等々についても使用できるものでありますので、ぜひ、そういった趣旨から、地元の農家も、そして、需要もしっかりと拡大といいますか、守れるように、そのために発券といいますか、その事業に取り組みたいと考えたところであります。

相対的にデジタル地域通貨、ながいコインについては、私ども、ほかの自治体よりは制度的につくっていますので早いのですが、それでも最短で3月の中旬あるいは下旬のもうぎりぎりかなと。ただし、おこめ券については農林水産省の配慮などもあって、1月中にお手元に、市民の皆様にご1人3,080円分ですか、それをお渡しできる可能性が高いということから、即効性もあって、おこめ券をぜひこのたびは長井市としては配布すべきだと考えたところでございま

す。

○内谷邦彦議長 12番、金子豊美議員。

○12番 金子豊美議員 趣旨については分かりました。

心配されることは、おこめ券でほかの食料品買えるということなんですが、その辺の市民への周知、例えばおこめ券だとお米しか買えないと思っている方もおられると思いますし、お米だけしか対応しない、ほかの食料品は対応しない、そういった商店によっても様々あると思いますが、その辺についてのお考えはどうでしょうか。

○内谷邦彦議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 最短でも1月中下旬ということですので、これはゆうパックでお送りするということですが、期間が1月の上旬、中旬ぐらいは少し余裕がありますので、その間に基本におこめ券を扱えるところは米を販売されている店舗ということになりますので、従来の米屋さん、扱っているところと、あと、スーパー、そういったところに再度依頼をします、取り扱ってくださいと。それと、取扱店と同時に、今、金子議員からありましたように、どういったものが買えるのかとか、そのおこめ券の利用方法等々について、ただし書とか一文をつけて、添えて、お送りすべきだなと現時点で考えているところでございます。

○内谷邦彦議長 12番、金子豊美議員。

○12番 金子豊美議員 何といたっても、市民が迷わないような方法で周知していただきたいということをお願いし、また、スムーズな取組ができるように期待しながら、私の質問を終わります。

○内谷邦彦議長 15番、今泉春江議員。

○15番 今泉春江議員 私の質問もダブるようなところがあるかと思えますけども、準備してきましたので、改めてお聞きしたいと思います。

高市政権は12月16日に総合経済対策の裏づけ

となる2025年度補正予算を成立させました。この補正予算に盛り込まれた重点支援地方交付金の取扱等と交付限度額を自治体に通知しております。

12月19日に私どもに届いた資料には、都道府県分は9,000億円、市町村分は1兆1,000億円、合計2兆円となっています。山形県は155億3,100万円となっており、また、山形県の市町村分は138億9,800万円となっており、うち食料品特別加算分は40億8,500万円となっております。

長井市の推奨事業メニューの交付限度額は、先日3億7,928万2,000円と説明がありました。確認をさせていただきます。新野参事にお聞きいたします。

○内谷邦彦議長 新野弘明総務参事。

○新野弘明総務参事 ただいま今泉議員からありました金額のとおり、約3億7,900万円でございます。

○内谷邦彦議長 15番、今泉春江議員。

○15番 今泉春江議員 確認させていただきました。

様々な推奨事業メニューが示されております。生活者支援としての食料品の物価高騰に対する特別加算という中で、物価高騰に対する低所得者、高齢者世帯支援、物価高騰に伴う子育て世帯支援、学校給食等の支援、消費下支え等を通じた生活者支援、省エネ家電買換え促進による生活者支援など、様々なものが示されております。

事業者支援では、医療、介護、保育施設、学校施設など、物価高騰に対する支援、中小企業、小規模事業者の賃上げ環境整備、エネルギー価格高騰対策支援など、様々なものが示されております。

このたびの本市でのデジタル地域通貨ながいコイン事業、長井市おこめ券事業、高齢者施設等物価高騰対策支援事業などは、どれも推奨事

業のメニューの実施となっております。

また、灯油購入助成事業、学校給食等負担軽減支援事業は財源振替ですが、推奨メニューの実施となっております。

私は、どのメニューも重要と考えますが、本市ではその中でおこめ券を選択した理由をお聞きいたします。

先ほど、市長のほうからもお話がありましたけれども、私のほうからもお聞きしたいと思います。市長のほうがよくないでしょうか。

市長、お願いいたします。

○内谷邦彦議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 今泉議員のご質問にお答えいたします。先ほどの金子議員とかぶる部分もございますが、ご了承いただきたいと思えます。

私どもで多分、山形県内のどこの自治体も検討したと思うんですが、おこめ券につきましてはいろいろな考え方ができるのではないかと。

まず、1つは物価高騰対策で米が非常に値上がりしておりますので、購入控えがあるだろうと。そういったときに、長井市としては特に米の生産については、私が水田利用の対策についての会長もさせていただいていますので、米穀会社やJAさんなんかと一緒に、あとはそれぞれの市内のいろんな団体の皆様から、毎年、何回も総会等々を開きながら、いろいろな意見を通じて、米作りを適正に、なおかつ持続可能にできるように応援しているわけなんです。

今回は、おこめ券ということで、まず、1つは早いということですね。あと、2つ目はこの長井市内でものづくり、製造業と農業のまちが基幹産業でありますから、そこを応援する意味で、消費拡大、消費が減らないように、おこめ券で市民の皆様にも地元の農家を応援してほしいということを促したいと。なおかつ農家の方はお米を買う必要ないわけですから、その場合は、おこめ券はそれ以外の食料にも使えることができます。ただ、先ほど金子議員からあった

ように、利用の内容については、詳しい説明あるいはあらかじめ私どもからの市民に対する周知が必要だと思っておりますが、そんなことを考えています。

つまるところ、繰り返しになりますが、米の生産と申しますか、需要の減少を防いでいく、それが、すなわち長井市内の農業で頑張っている、米作りで頑張っている農家の支援にもなりますし、価格の安定につながるのではないかと。ということで、おこめ券の配布の事業を検討させていただきました。

ただし、国のほうでも、特に農林水産省のほうも、できるだけ手数料を少なくして、そしてまた、より多く米を買うことができるように工夫もされています。私どももおこめ券に手数料がかかるとか、経費がかかり過ぎるといっては、普通はどんな商品券の、プレミアム商品券でもそうでしたけれども、印刷代と送料かかるわけです。それから、市のほうの事務経費と合わせて、何ととっても取り扱う店舗の協力と、それを取りまとめて使っていた分をそのお店のほうにお支払いしなくてははいけないんです。その手数料がすごく大変なんです。その点、おこめ券は非常にその点がシンプルですので、もうむしろその部分も決して多くはないだろうということで、最初からちょっとおこめ券に対して、アレルギーみたいなのがある自治体さんは、ちょっとできれば理解してほしいなど、地元農業地帯の首長としては考えておりました。

○内谷邦彦議長 15番、今泉春江議員。

○15番 今泉春江議員 今、市長からも答弁ありましたが、おこめ券はマスコミ報道などでも特に話題になっております。昨日の山形新聞では、共同通信社の電話での世論調査で、物価対策としてのおこめ券配布に関し、効果が小さいが82.4%と報道されていましたが、本日の山形新聞では、鈴木農林水産大臣は、おこめ券の経費は高くない、10%台でおこめ券を活用するこ

とで、スピード感のある対応ができていますなどと話されています。今市長からもそのような答弁があったと思います。

ところが、市民の方からは、おこめ券配布が大きく報道されましたので、いろいろな意見が私のほうにも寄せられております。農家ではないんですけれども、生産者から、長井市のようなところでいいお米が取れるものですから、生産者から直接買っているのですからおこめ券は利用できない、それから、農家の方ともお話ししたのですけれども、農家の方は、お米を食べてくださいと、そういうふうにおっしゃっていました。

そして、ある方はお米高く買えないので、今まで麺やパンなど、そういうものが多くなっていたけれども、今回はおこめ券ということでお米を買う一部になるという意見というか声もありました。

このように、市民の間で意見が分かれています。全国的にも賛否が分かれています。おこめ券ですが、今の市長のお話では、早く応援したい、それから、農家なども応援したい、市民に応援したいということですが、そのことで確認をしたいと思っておりますけれども、今、答弁いただきましたので。

それでは、そのおこめ券なんですけれども、440円を7枚、市民1人当たり、7枚としておりますが、この440円という金額なんですけれども、全農などでは物価高騰対策として配る場合に、手数料分60円を2割から3割値引きすると発表しております。そして、全米販では利益を差し引くなど、販売価格を477円に引き下げることを受けています。少しでも市民に有利なものをご検討いただければと思いますが、いかがでしょうか。

新野参事、お願いいたします。

○内谷邦彦議長 新野弘明総務参事。

○新野弘明総務参事 事前に全米販のほうと調整しておりますが、当初、報道で500円というこ

とを言われていたのですが、今477円で調整させていただいております。

あと、全農のほうは少し前の報道ですと480円ということですが、具体的なところは発注前に両方確認しながら進めていきたいと思っておりますが、今のところ、全米販のほうと477円で調整しているところでございます。

○内谷邦彦議長 今泉議員、よろしいですか。

15番、今泉春江議員。

○15番 今泉春江議員 もう何点かお願いします。

先ほども金子議員から質問がありましたが、おこめ券は利用店が認めた商品の購入も可能であると。さらに、農林水産省も自治体向けの説明で米以外でも使えるメリットをPRしております。

本市でも、米以外でも使えることをお知らせいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

○内谷邦彦議長 新野弘明総務参事。

○新野弘明総務参事 これから発送準備とかするわけなんですけれども、恐らく発送できるのが1月の中旬ぐらいかなと思っておりますが、それまでにお店のほうと調整しながら、あとは市民の方には、例えば1月の15日、全戸の文書配布日になっていきますので、それまでに調整いたしまして、店舗と、あと、店舗で取り扱えるのは米だけなのか、ほかの食料品もできるか、その辺を調整しながら、まず、全市民の方に全戸配布で周知するところと、あとはおこめ券発送する段階で同封して使えるお店等も周知していきたいと考えております。

○内谷邦彦議長 15番、今泉春江議員。

○15番 今泉春江議員 市長にお聞きいたします。

このたびの国の補正予算を見込んで、12月議会に提案する議会も少なくないと報告を受けていました。早く市民にお届けするためなら、本市でも12月議会の補正予算に盛り込むことも選

択肢かなと思いますが、そのようなお考えはありませんでしたでしょうか、見込んでということで。

○内谷邦彦議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 おっしゃること分かりますが、予算の裏づけがないと、今回は3億2,928万2,000円です。議会に提案して、例えば基金とか、その財源を明確にしなくてはいけないわけですね。そうしますと、雪が幸いにしても今のところ大雪になっていないのでいいんですが、長井市議会の場合は、今回は議会のお計らいもありまして、最終日がいつもより少し早かったわけですね。そうしますと、あの時点で3億3,000万円とか4,000万円、つかみでやっちゃうというのは非常に裏づけがない中で、議会に提案するのは少し問題があるものと思っておりますので、あくまでも長井市独自でその政策をやるということだったらいんですが、国のそういう物価高騰対策重点支援事業の形では、市の事業としてやるしかないわけですね。

ですから、ほかの議会がそれを前もってやっていったというのは、例えば東京23区内はおこめ券も含めていろんなことをなさっていますが、それは独自の財源の豊かなところができる場所であって、残念ながら、私どもとしてはそこまでのちょっと財政的に余裕がなくて、これは不適切であろうと、きちんとした国の支援が確定した後でない、それを議案として提案はできないと判断したところでございます。

○内谷邦彦議長 15番、今泉春江議員。

○15番 今泉春江議員 国の補正予算を見込んでという意味で質問させていただきました。

長井市で国の補正予算が来るという、それを見込んで12月の補正予算に、そうすると、本当に年内とか早い段階で市民に届くと。スピード感というものが大事ではないかなと思って今の質問をさせていただいたところでした。

○内谷邦彦議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 繰り返しになりますが、長井市で独自にやるということであれば、もうそれは12月議会ではなくても、9月議会でもできるわけです。ですから、私が申し上げているのは、長井市のような財政力、残念ながら弱い、そういった自治体で国のきちんとした裏づけがないままに、独自の予算を全部基金とか取り崩して、これから雪がどのぐらい降るか分かんなくて、本当に基金は議会からもお認めいただきましたけれども、いろんな公共事業を今やるしかないということで行ってききましたので、大変基金も枯渇状況でありますので、国が予算をやるだろうという、それを当てにして、空予算は組めないわけです。ですから、財源の内訳としては全部集めなくてはいけなくなるわけです。

そうすると、財政調整基金を含めて、減債基金とかいろんな基金もかき集めてやらないと、もう3億円、4億円は無理でございますので、ですから、議員おっしゃるように、国のものを当てにして、12月議会にそれを長井市独自の予算として提案するというのは、これは長井市としては無理です。できるとしたら、財政力あって、国の予算を当てにしない自治体であれば可能でしょうけれども、長井市の場合、私の判断では極めて難しいと考えているところでございます。

○内谷邦彦議長 15番、今泉春江議員。

○15番 今泉春江議員 市長のお考えは分かりました。全てということじゃなくて、必要なものを12月議会に、国の補正予算を見込んでという意味で質問させていただいたところでした。市長のお考え分かりました。

まず、スピード感を持った対応が、これは求められると思います。先ほどながいコインとおこめ券の事業の市民にいつ届くかということで、金子議員もお聞きしておりますが、それぞれの事業が提案されております。それぞれいつ市民や事業所に届きますか。

新野参事、お願いいたします。

○内谷邦彦議長 新野弘明総務参事。

○新野弘明総務参事 おこめ券については、今調整中で、これから予算成立してからになりますけども、手順としましては契約締結をしてから、請求書が来て、支払って、それから実際のおこめ券が納入されるという手順になっていますので、初動のところちょっと時間がかかりますが、なるべくスムーズにそこは調整していきたいと思っておりますけども、早くとも1月の中旬以降になるかと思っております。

あと、ながいコインについては、先ほど市長が申し上げましたとおり、3月の中旬から下旬ということで想定しております。

○内谷邦彦議長 15番、今泉春江議員。

○15番 今泉春江議員 事業者への支援というのはいつ頃になりますか。示されておりますよね、高齢者施設への。

○内谷邦彦議長 渡部和喜子福祉あんしん課長寿介護・地域包括支援センター担当課長。

○渡部和喜子福祉あんしん課長寿介護・地域包括支援センター担当課長 高齢者施設等に対する支援につきましては、1月中に各事業所に通知しまして、申請を受付開始いたします。1月受け付けたものにつきましては2月中旬、2月受け付けたものにつきましては3月中旬に支払いを行いたいと考えております。

○内谷邦彦議長 15番、今泉春江議員。

○15番 今泉春江議員 なるべく早く届いてほしいと願っております。

おこめ券とながいコインが2回にわたって市民に送付されるということですね。

それで、この郵送料というのも2回かかります。516万円が2回ということで1,320万円になります。先ほど市長から、ゆうパックということで送付するというお話がありましたけども、ゆうパックですと両方一緒に送っても大丈夫ではないのかなと。当局としてはなるべく早くと

いうことで、まずおこめ券、その後、3月にながいコインということではありますが、少しでも経費を削減するのであれば、ながいコインの送付というの、大変でしょうけども、同じくおこめ券を2月とか一緒にまとめて送ったほうが経費は半分に減る、郵送料は半分に減るのではないのでしょうか。そのようなことはお考え、市長、お願いいたします。

○内谷邦彦議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 今泉議員おっしゃるのは、確かに500万円がもったいないのではないかということなんですが、デジタル地域通貨ながいコインがなぜ時間かかるかということ、本来であればスマホ決済で全てできれば早いんです、もっと。ただ、それをスマホ決済だけではなくて、カードでも誰でもできるようにするには、どうしても時間がかかるということで、3月の下旬なんです。

一方で、おこめ券のほうは、毎日食べるお米ですから、ながいコインは何でも使えるんですけど、したがって、それは例えば総額で8,000万円程度でしょうけども、そのうち500万円ぐらいの郵送料はかかるのは、これはしょうがないと。だから、それがもったいないからって、3月に一緒にするというのは、せっかく国でも急いでいただいたわけだし、あと、私どもとしても一緒にしたいんですが、ちょっとどうしても2カ月ぐらい違うとしたら、先におこめ券をお配りしたいということですので、ぜひ、そこはご理解いただきたいなと思います。

○内谷邦彦議長 15番、今泉春江議員。

○15番 今泉春江議員 市長の思いは分かりました。

市民は、今、本当に物価高騰で大変な思いをしております。早く市民の皆様にお届けできますことを願って、質問を終わります。

○内谷邦彦議長 ほかにご質疑ございませんか。

1番、平井直之議員。

○1番 平井直之議員 平井直之でございます。

このたびの物価高騰対応支援地方創生臨時交付金事業につきましては、この物価高騰で影響を受けている市民の負担軽減、事業者の支援はしっかりとしていくべきという同じ思いであります。

その中で、何点か質問させていただきたいと思っております。

初めに、デジタル地域通貨ながいコイン事業についてお聞きいたします。

1人当たり、1万2,000円のながいコインを全戸配布されることでのことでしたけども、3月中旬から、今答えていただきました下旬とありましたが、これより遅れるということはあるのかどうか、ちょっと今の段階ではなかなか難しいと思っておりますが、いかが考えますか、新野参事にお伺いしたいと思っております。

○内谷邦彦議長 新野弘明総務参事。

○新野弘明総務参事 ながいコインの配布につきましては、年度内に配布することで十分に準備しながら進めてまいりたいと思っております。

○内谷邦彦議長 1番、平井直之議員。

○1番 平井直之議員 承知しました。

もう1点、改めて確認させていただきますけれども、ながいコインの経費率というのはどのようになりますか、新野参事にお伺いいたします。

○内谷邦彦議長 新野弘明総務参事。

○新野弘明総務参事 ながいコインの経費率につきましては、ながいコインのほかに郵送料であったり、あとは封入作業等々ございますので、割合といたしましては3.4%ということで確認しております。

○内谷邦彦議長 1番、平井直之議員。

○1番 平井直之議員 確認させていただきました。

次に、長井市おこめ券事業についてお伺いいたします。

ちょっと今と同じような質問になりますが、

おこめ券の経費率はどうなりますか、新野参事にお伺いいたします。

○内谷邦彦議長 新野弘明総務参事。

○新野弘明総務参事 先日、全員協議会のほうで答弁させていただきましたが、当初、おこめ券につきましては440円分を、本市でいいますと500円で購入ということを考えておりましたので、割り返しますと経費率は12%ということで想定しておりましたが、このたび全米販のほうで477円で調達できること分かっておりますので、割合といたしましては7.7%ということで確認しております。

なお、おこめ券以外に郵送料であったり、あとは封入作業でございますので、事業費全体で見ますと14.8%ぐらいの経費となっております。

○内谷邦彦議長 1番、平井直之議員。

○1番 平井直之議員 14.8%と確認させていただきました。

金子議員、今泉議員からも質問ありましたけども、おこめ券につきましては、お米以外にも使えるということでございます。ただ、何でも使えるおこめ券なのか、どのようなものが購入できるのか、また、どこでもそのおこめ券というものは使えるのかどうか、新野参事にお伺いしたいと思っております。

○内谷邦彦議長 新野弘明総務参事。

○新野弘明総務参事 おこめ券を使えるお店につきましては、今調整中でございますけども、お米だけ使えるお店と、あとはお米以外に食料品のほうも同時に使えるお店、様々ございますので、そこにつきましてはこれから調整いたしまして、市民のほうにしっかりと周知していきたいと考えております。

○内谷邦彦議長 1番、平井直之議員。

○1番 平井直之議員 承知しました。おこめ券事業に係る経費について、ただいま14.8%ということをお聞きしました。

資料によりますと、通信運搬費で516万円、

委託費の中に含まれている配布事業で150万円、合わせて666万円が経費として計上されております。また、新野参事からありましたおこめ券に係る経費、1枚477円で計算しますと、1枚当たり37円の経費がかかります。1人当たり7枚、2万4,000人で試算しますと、約621万円という経費になり、おこめ券事業全体における経費合計では1,200万円を超える経費ということになるかと思えます。

そのほか、調査等をこれからされるということもありますので、それに係る人件費、数字に表れないでしょうけども、人件費、労務費なんかもかかってくるので、さらに経費がかかるのではないかと推測いたします。

このおこめ券とながいのコインを一緒にし、例えば1万5,000円のがいのコインとして配布ができれば、この経費の分はかからずに済むのではないのでしょうか。このかからずに済む経費分を、例えば非課税世帯や子育てされているひとり親世帯に幾らかでも支援ができれば、その方々の負担軽減を図れると考えますが、その辺、市長のお考えをお伺いしたいと思います。

○内谷邦彦議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 平井議員からは、いろいろ手数料の比率やら、様々な経費等々、重ねてどのぐらいかかるということをやまずは明らかにさせていただいて、その上でどうだというご質問かと思いますが、私どもとしては、確かに物価高騰対策ですから、できるだけ早くということがまず1つです。それから、長井市としてどれが一番、どういうやり方が一番効果あって、市民の皆様があるいはおこめ券については農家の方も多いわけですから、ご理解をいただけるかと考えたときに、確かに1,000万円ぐらいかかるんですよ、いろいろ何だかんだで。ながいコインはもう地域通貨として時間をかけてやってきましたので、郵送費とか手数料はちょっとかかるんですが、非常に低い比率でできるんです。私は、

それと一緒におこめ券については、あくまでも目先だけではなくて、長期ではないんですが、ここ2年、3年あるいは5年を見据えて、農家の皆さんが再生産できるようなお米の安定的な、高値ではないですよ、適正な価格で国民の皆さんに喜んで食べていただけるようなこと、あと、今回、新米が高くなっていますから、例えばおこめ券ではないとすると、買い控えて違うもの買ったほうが得だという、もちろんそういうふうに考えられる方もいらっしゃると思いますので、そうすると需要が減ってしまう。これもなかなか難しいものがあるなということから、それとは別に、今すぐとかというよりは、ある程度おこめ券については、そういう中期的な1年、2年ではなくて、3年、5年ぐらいのスパンで考えた上で、今回、そういうふうに政府がやってくださったわけですから、それを私は評価させていただきたいということで、おこめ券を選んだところですよ。

なお、議員からあったように、確かに郵送料も含めて、一緒におこめ券とデジタル通貨を3月下旬なら3月下旬に送るという手もあるでしょう。けども、おこめ券についてはやめるということではなくて一緒に送る場合だったら、そんなに2カ月遅くなって、じゃあ、1人当たりどのぐらいの、じゃあ、お返しできる手数料の分かということ、1,000万円ということと2万5,000人分、2万4,000人分ですから、お1人当たり400円、477円かなということですから、それは私ども農業地域ですから、市民の皆様にはご理解いただけることだと私は判断いたしました。

だけど、それがちょっと無駄ではないかと言われれば、それは確かにおこめ券が必要ないと考えた場合は、それはそのとおりだと思います。

したがって、あくまでも私どもとしてはおこめ券の趣旨からいって、物価の高騰対策の中で、お米の持つ意味、そして、我々が農業を基幹産業の一つとしている長井市としては、農家のた

めにも、これはおこめ券を発行すべきだと。なおかつ、これが一番早くできるということから、今回、提案をさせていただきましたので、ご理解をいただきたいと思います。

○内谷邦彦議長 1番、平井直之議員。

○1番 平井直之議員 お伺いいたしました。

お米を購入して、農業全体の下支え、お米の消費を上げる取組については理解しているところでございます。

ただ、このおこめ券では、1枚440円分のお米しか買えません。額面どおりの500円分のお米が買えれば、購入量も増えて消費量も増えるのではないかと考えます。

まして、お米以外にも買えるとなれば、できるだけ効率のいい買物となれば、額面どおりの買物ができれば、お米の消費、購入量についても上がっていくのではないかと考えます。

できるだけこの1,200万円が多いか少ないか、それぞれ考えがあるかと思いますが、できるだけ経費をかけずに成果を上げるかというのは、私、製造業上がりなので、そういう思いなのかもしれませんが、できるだけ余力といいますか、あまり経費をかけずに、かけなかった部分をもう少し市民の方に還元できるようなことができればという思いでございます。

今、困っている方もおられると思いますが、できるだけ手厚い支援ができれば、約1カ月、2カ月ぐらいちょっと遅れてしまうのかもしれませんが、手厚い支援をしていただければ、市民の方にもご理解いただけるのではないかと私は思っております。

ですので、私の考えではながいコインで何とか対応できないかなと思いますが、改めて市長にちょっとお考えをお伺いいたします。

○内谷邦彦議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 平井議員のお考えは十分理解できますが、ただ、考え方としては、長井市としてはおこめ券はおこめ券の、市民の皆様に配布

させていただく価値があると。ですから、考え方です。どっちがいいかといった場合、考えが分かれるのと同じように、私は先ほど申し上げましたように、私は現在は農業はしておりませんが、専業農家でありましたし、米のことについては非常に思い入れがあります。かつては食管法で守られていたわけです。国が価格を決められた時代なんですよ、買い上げして。国は、その価格を決めるときは、ちゃんと再生産できる、生産費とかいろいろデータをきちっと集めて、そして、納得のいく金額、導いていたわけです。ところが、食管法なくなったわけですから、したがって、今の価格というのは、市場です、市場価格です。ですから、あくまでも需要と供給によるものであるわけです。

ご承知のとおり、もうとてとて、昨年までの米だったら、農業だって米作って合わないです。そういう状況の中で、長井は少なくなったとはいえ、1,000戸以上の農家がいらっしゃるわけで、ですから、その農家の皆さんが苦しんでいるときに、それ、おこめ券なんかやるんだったら、同じだったらそっちのほうがいいでしょうというのは、もしかしたら都市自治体の中でも、都会のほうがだったら、それが市民の理解が得られるかもしれません。ただ、私は農業が基幹産業の一つである、製造業と農業ですから、長井市としては、おこめ券をぜひ市民のご理解を得て、自分使わなかったら、遠くにいる家族とか娘とか息子にあげるというのもいいでしょうし、また、そうではなくて、自分で米以外のものを、農家の方なんかは買ってでもいいわけですし、そういうことからいえば、私は農業県としておこめ券が無駄だということは、今回の事業では、個人の自由ですよ、買う、買わないは。でも、国でそういうふうに推奨しているメニューにあるわけですから、これは私どもとしては乗るべきだと考えたところです。

しかも、ながいコインは3月末というんです

が、通常でいったら、年度内に発行できないと思いますよ、私は。だって、これから商品券を配るときに、印刷して、そのデザインも含めて加盟店も募集するでしょう。あと、金券と同じですから、普通の郵送ではできないわけです。書留とか簡易書留とか、あるいはゆうパックとか、とにかく受け取りのサインがないと混乱しますので、そういったことを考えたら、先ほどおこめ券のほうは全農とか米販の、米穀会社のほうの協会なんかも、少しでもそれを使ってくれば、手数料の分、減らすようにしてと、先ほど言いましたように477円でしたか。そういうふうにして、少しでも業界も国民の皆さんに米を買ってもらいたいと頑張っているわけです。我々、農業県、農業のまちの一つである長井市が、それを理解できないというのは、いろんな事情があるんでしょうけども、私はそういう考えではないと。したがって、私のほうからは、ぜひ、平井議員、ご理解くださいと、応援してくださいと、こういうふうに言うしかないわけですが、何とぞご理解いただければと思います。

○内谷邦彦議長 1番、平井直之議員。

○1番 平井直之議員 市長の思いをお聞きしました。私は民間上がりですので、ちょっと微妙に考え方が違うのかなと思っています。商品券であれば、額面どおりの買物ができれば、私的にはいいのかなと思うわけです。

おこめ券もお米以外、お米だけ買える券であれば、それはそれでお米を買う趣旨で買うことにはなるかと思いますが、お米以外も買えるとなれば、おこめ券という商品券だと思うんです。商品券であれば、額面どおりの買物ができたほうが、市民としてもいいのかなと私は思っているところでございます。

様々考え方、個々人のご都合もございまして、そこは何とも言えないところはございまして、一日も早く市民への手厚い支援になりますようお願いいたしまして、私からの質問は終

わりといたします。

○内谷邦彦議長 ほかにご質疑ございませんか。
11番、浅野敏明議員。

○11番 浅野敏明議員 改めまして、2款1項6目123物価高騰対策重点支援地方創生臨時交付金事業について、ご質問いたします。

これまで3人の議員の方の質問にありましたが、なるべく重複しない部分で質問をしたいと思います。

この事業には、デジタル地域通貨ながいコイン業務委託料と長井市おこめ券配布等業務委託料の2つの種類があるわけですが、それぞれ、どちらに委託されるのか、想定しているのか、総務参事にお伺いします。

○内谷邦彦議長 新野弘明総務参事。

○新野弘明総務参事 おこめ券につきましては、素早く対応しなくてはいけないというところもございまして、これまで実績のある、例えばプレミアム商品券、ながいのまちサポート商品券、あとはながいコイン、そういった実績のある地場産業振興センターを想定しているところでございます。

○内谷邦彦議長 11番、浅野敏明議員。

○11番 浅野敏明議員 今までデジタル地域通貨、ながいコインは実績あるわけなので、地場産のほうではそれなりに対応できると思いますが、換金も地場産で今までされたのか、おこめ券の換金はもうそれぞれ委託業者のほうでされるのか、改めてお伺いします。

○内谷邦彦議長 新野弘明総務参事。

○新野弘明総務参事 すみません、ながいコインにつきましては、さっきちょっと言ってしまったのですが、地場産業振興センターを予定しておりますので、換金につきましては、地場産業振興センターを窓口としながら、商工会議所にも支援していただきまして、ながいコインにつきましては換金作業を行っているところでございます。

あと、おこめ券につきましては、特に換金作業とかございませんで、例えばお米屋さんで購入したときに、おこめ券はそこで使えますけども、そのおこめ券はお米屋さんから卸業者さんのほうにお渡しをして、次の配達のとときに精算されるという仕組みでございますので、今回のおこめ券使ったときの精算につきましては、今回の業務には含まれておりません。

○内谷邦彦議長 11番、浅野敏明議員。

○11番 浅野敏明議員 そうしますと、米以外のものの食料品を購入したときも、その米と同じような換金方法なんでしょうか。

○内谷邦彦議長 新野弘明総務参事。

○新野弘明総務参事 おこめ券につきましては、換金という概念がそもそもございませんので、配布して終わりという形となります。

○内谷邦彦議長 11番、浅野敏明議員。

○11番 浅野敏明議員 分かりました。

最後に市長にご質問いたします。

周辺の自治体、特に全国の自治体で発表されている市民への配布額について、公表されているわけですが、長井市が合わせて1万5,000円の額を、1人当たり配布するわけですが、各自治体よりも多めの配布金額だと思いますけども、1万5,000円にした趣旨について、最後にお伺いいたします。

○内谷邦彦議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 いろいろ全員協議会などでも説明があったかと思いますが、私ども、国のほうで決定された交付金額というのは3億2,928万2,000円ということなんですけれども、それらについて、いろいろ、例えば福祉業界であったり、あと、学校給食であったり、あるいは酒米のほうとか、いろんなところから支援を求められていますので、そういったところを差し引いて、できるだけ全て、いち早く皆さんにお送りしたいということで、何とかおこめ券を含めて1万5,000円で配布できるなということから、

まずは頑張っ、足りないところは一財、その分は何億円なんていう一財ではありませんので、数千万円は覚悟の上で、少しでも多く配布したいという願いから、1万5,000円に決めたところでございます。

○内谷邦彦議長 よろしいですか。

ほかにございませんか。

10番、渡部秀樹議員。

○10番 渡部秀樹議員 市長にお聞きしたいんですけども、ちょっと皆様と私、いつもどおり視点がちょっと違っていて、その他の皆さん、ほかの議員の方々のも様々お聞きしたんですけど、私が市長とのやり取りで感じたところもありまして、おこめ券が市民の皆様配られる季節が寒の時期で、ちょうど節分を迎える頃です。日本では古来から、一番人間の体が弱いという時期に、食料に関わる支援をできるというのは、行政としてはすごく力強い事業だなと感じました。たまたま早くするというので、ここに収まったと思うんですけど、ジャストミートのタイミングではないかなと私は感じております。

私は非農家なので、朝、ご飯がなく、お米がなく、炊けずに苦しい思いをしたことが、小学校、それ以前からありまして、学校給食に、今、米飯が含まれていることはすごくありがたく、以前から持ち弁とってお米持っていくことがあったんですけど、それがなくなったということ、物すごく私は評価していますし、子育て中の身として子供5人、上2人はもう巣立ちましたけど、まだ3名育てている中で、非常にありがたいなと思っております。

朝、お米がない、食料がないというのはすごく苦しくて、夕飯は出せても、朝、おなかを抱えたまま学校へ行ったこと、何度も実はあるんです。持ち弁で白いご飯を持っていけなかったときだってもちろんあります。なので、市長のこういう温かい感覚というのはありがたいと思いつつ聞いておりました。

そして、ちょうどながいコインが到着するのが3月中旬から下旬なんで、何かと物入りの季節です。進学だったり、入学だったり、何だりかんだり随分、いろんところで物入りの季節なので、そんなときにながいコインというのは、これもまた、ありがたいタイミングで届くのかなど。これがちょっと違ったタイミングで届くと、業界用語でいう、溶けるといいますか。どこに消えたか分からなくなってしまうんですけど、食料支援、お米を中心とした支援対策として、おこめ券が届くというのは、もうおこめ券ですから、もちろん食料、いろいろ使えるようにということも各議員からも上がっております。私もそう思うんですけど、おこめ券というとお米を買うという目標が出ますので、まずはその苦しい一番寒の時期で、そんな時期に食料なくということは済むのかななんていうことを思いながらお聞きしておりました。

食べておいしい、地元長井のお米と、寒の時期、もらってうれしいおこめ券かなという感じで聞いておまして、年度末、いろいろかかる時期にありがたいながいコインだなと。

そこで、1つお聞きしたいのが、おこめ券の給付額の440円掛ける7枚、3,080円ですか、になった、そこで確定したというのはどこにあるのかお聞きしたいと思います。

○内谷邦彦議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 いろんな考え方で私からすれば励ましていただいたような形で、大変うれしく思いました。

それで、3,080円の根拠でございますが、高市総理あるいは鈴木憲和農水大臣のほうが、3,000円とおっしゃっているんですね。おこめ券3,000円で国民の皆さんにお米を、ぜひ、3,000円分買ってほしいと。なかなか米も今まで満足に食いたいけど、我慢していたという方には、ぜひ、これでおいしいお米をということなんですけど、先ほどおっしゃったように、最初

は440円という使い道、使える部分が440円、したがって、7枚ですと3,080円分ということで、7枚という感じなんです。それが、もしかしたら480円分使える可能性もあるんですが、それもそれとしても、7枚分は私どもとしては予算化していますから、ですから、3,080円分ということなんです。

なお、手数料はかからないわけです。郵送費だけですから、したがって、実は早いし、まず印刷とか何かすることない。あとは、換金するところの手続は商工会議所さんに頼んだり、あと、地場産さんに頼んだり大変なわけです。商工会議所さんなんか以前頼んだこともありますけど、大変苦労されておりました。したがって、通常、そういう売買なんかの売上げなどがある地場産業振興センター、道の駅なんかやっていますので、そういったところをお願いしたわけですが、でも、その換金の手続も要らないんです。ですから、おこめ券の悪い部分だけいろいろ言われるんですが、もともと発売元の全農さんとか全国の米穀会社の連盟、協会なんかで少しでもおこめ券の利用価値が高まるようにということで頑張っているわけですから、大変ありがたいなど。ですから、早いし、そして、それなりに使いやすいし、米以外でも買えるということですから、非常には私はありがたいことだと思っています。

繰り返しになりますが、そもそもは高市総理、あと、鈴木農水大臣がおっしゃった3,000円分ということを保証するには、440円の7枚ということで3,080円を予算化させてもらったところでございます。

○内谷邦彦議長 10番、渡部秀樹議員。

○10番 渡部秀樹議員 高市総理と鈴木農水大臣の言葉からの3,000円で、当時の440円掛ける7枚ということで、そこをクリアする額面だということは理解したところでした。

あと、経費的に見れば、実際、我々の手元か

ら離れたところで、様々かかっている部分が一切かからず、換金手数料なんかも存在しないということで、見えない経費がかからないというのは、スムーズな経済効果も得られるんじゃないかということだと思います。理解したところです。

農村地域における非農家というのは、意外と苦しくて、隣の家はお米があっても、我が家はお米がないというのは多々あるわけなんです。まちなかでも農家の方がいるわけで、私から言わせると、もうちょっともらったほうがうれしかったのはもちろんなんですけども、また機会があれば、このおこめ券というのも考えてもいいのかなと思いつつながら、質問は終わらせていただきます。

○内谷邦彦議長 ほかにご質疑ございませんか。
(「なし」と呼ぶ者あり)

○内谷邦彦議長 質疑もないので、質疑を終結いたします。

それでは、議案第87号について討論を行います。ご意見ございませんか。

1 番、平井直之議員。

(1 番平井直之議員登壇)

○1 番 平井直之議員 議案第87号 令和7年度長井市一般会計補正予算第9号に反対の立場で討論をいたします。

全国や県内でも様々議論になっておりますが、本市におけるおこめ券事業全体では、1,200万円を超える経費になり、ながいコインでも同様の通信運搬費等、二重の経費がかかってしまいます。

また、この事業に係る職員の人件費も含めると、さらに経費が大きくなると考えます。

2つの事業の趣旨は理解するものの、この財政の厳しい状況下で、あまり経費をかけずに事業を進めるべきと私は考えます。

物価高騰に対する市民への負担軽減、地域内消費については大賛成であります。また、米の

消費を図り、農家さんへの下支えもしていかなければならないとは思っております。それゆえに、今回の物価高騰に対する交付金を最大限、市民の皆様に支援をし、米をはじめ、様々購入していきたいと思っております。

ながいコインでも経費はかかってしまいますが、できるだけ経費がかからないようながいコイン事業1つにし、システムの有効活用をしていただき、市民への手厚い支援と一日でも早く配布できるよう注力していくべきと考えます。

議員各位のご賛同をいただきますことをお願い申し上げます、反対討論といたします。

○内谷邦彦議長 ほかにご意見ございませんか。
(「なし」と呼ぶ者あり)

○内谷邦彦議長 ほかに意見もないので、討論を終結し、採決いたします。

議案第87号は、原案のとおり決するに賛成の議員の起立を求めます。

(起立多数)

○内谷邦彦議長 起立多数であります。

よって、議案第87号は、原案のとおり決定いたしました。

最後にお諮りいたします。

本臨時会において議決されました議案の中で、条項、字句、数字その他整理を要するものについては、会議規則第43条の規定により、その整理を議長に一任願いたいと思いますが、これにご異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○内谷邦彦議長 異議なしと認めます。

よって、整理を要するものについては、その整理を議長に一任することに決定いたしました。

閉 会

○内谷邦彦議長 これをもって令和7年12月長井

市議会臨時会を閉会いたします。ご協力、誠にありがとうございました。

午後 2時12分 閉会

会議録署名議員

議長 内谷 邦彦

14 番 梅津 善之

15 番 今泉 春江

1 番 平井 直之